

The view of village mountain where you can feel rich nature of Ryozen mountain and the lives of people. In the harvesting season, peach tree branches are hung down heavily, blue sky is reflected on the rice field. Golden-color rice plants, and favorably-plowed field. Everything is casual but beautiful, and it calmly and deeply impresses the scenes of home town.



太陽のきらめきを反射する水田

人が胸に抱くふるさとの風景は、もちろん人によって異なります。そういったと同じ風景であっても、異なる色をしているに違いありません。あなたのまぶたには、どんな風景が浮かんできますか？

まちをぶらりと歩けば、霊山ならで

はの心やすらぐ風景に、あちらこちらで出会うことができます。豊かな霊山の自然と、ここに暮らす人々の息吹が感じられる、里山の風景です。きつと、まちに暮らす一人ひとりの胸の中に、宝物のように深く刻まれていることでしょうか。

収穫のときを迎え、枝を重たそうに垂れる桃の木や、鏡のように青空を映し込む水田のきらめき。実りの季節を迎えた黄金色の田んぼや、よく手入れ

された畑。イチゴのハウスが淡く灯る暮れの風景…。どれもこれもさりげなく、そして美しく、静かに深くわたしたちの胸にふるさとを刻み込みます。

秋になると、霊山の紅葉はもとより、色よく熟した柿が、まちを鮮やかに印象づけます。鈴なりの柿の木を見あげ、

竿を使って収穫する老夫婦の姿や、孫と一緒に軒先で柿を結んでいるおばあさん。そしてズラリと大量につるされた干し柿小屋の風景は、いつまでもなくしたくないふるさとの風景のひとつです。

冬になると、

霊山のまちは雪化粧でいっそう美しく飾られます。真っ白な銀世界の中に、家々の明かりがやさしくきらめきます。

里山の風景は、ただ美しいだけでなく、この地で生きる人々の暮らしが織り込まれています。

だからこそ、やさしくてあったかい、見る人をなごませることができる力があります。

霊山町には、そんなふるさとの原風景があります。



刈田の風景



つるし柿がズラリ